

厚生常任委員会行政視察報告

令和元年10月2日から4日にかけて、石川県金沢市において、先進事業の調査視察を行いました。

■「金沢市広域急病センターについて」

全国的に医療体制の問題が叫ばれる中、救急医療体制の構築は、課題解決の一つとなり得ます。

金沢広域急病センターは、金沢市が中心となり、4市2町（金沢市、白山市、かほく市、野々市市、津幡町、内灘町）の自治体が連携して夜間の小児診療、初期内科医療を行うため設置されました。

この広域化の背景には、自治体単独での医師確保や経費拡大の抑制などがあったと考えます。

本市では、休日夜間急病センターに代わり、平成26年から市立病院夜間救急外来がその機能を担っており、周辺自治体からの受診者も多く、このことから、今後より一層、地域の医療を周辺地域自治体の緊密な連携で守っていくとの合意形成が必要ではないかと考えます。



▲広域救急医療体制の調査

■「Share（シェア）金沢について」

生涯活躍のまち（日本版CCR）の先進モデルと評される「シェア金沢」は、国立病院機構金沢若松病院の跡地約1万1,000坪に建てられ、敷地内には、障がい児入所施設、サービス付き高齢者向け住宅、学生向け住宅などの住居施設のほか、高齢者デイサービス・訪問介護ステーション、障がい者向けグループホーム、児童発達支援センターなどの福祉関連施設、敷地外の人々も利用できる天然温泉、レストラン、売店、キッチンスタジオ、ドッグランなどの商業・サービス施設が分散して配置されています。

それぞれの施設間の移動は、あえて人ひとりが歩けるような小径

で、住宅群の間を抜けるように工夫されており、人と人とがすれ違う際に自然とコミュニケーションが交わされる仕掛けとなっています。

高齢者、障がい者、学生や周辺地域の住民が、多様に交流する機会と場を設け、コミュニケーション機会を意図的に生み出そうとしているところが、最も特徴的な点であります。

天然温泉やレストランなどの商業施設は、障がい者の就労継続支援事業の場となっており、周辺の住民も気軽に利用でき、施設内外の交流の機会を生み出しており、学生向け住宅に住む大学生は、安価な家賃と引き換えに、月30時間のボランティア活動を行うことが条件となっています。施設内の高齢者も元気なうちはボランティアとして活躍し、後にデイサービスや訪問介護サービスを受けることができます。また、近隣の子どもたちにも開放されており、子どもたちが施設内で楽しく遊ぶこともできます。

このように、高齢者、障がい者、地域住民、子どもなど、それぞれ

が必要とする支援に対し、それぞれが持っている能力を生かせるようにさまざまな仕掛けがなされています。

これからの時代は人口減少による人手不足や災害など想定外の事態も考えなければならず、その問題解決には、やはり地域住民のつながりを強くし、助け合える形が望ましいと考えます。これらの施設は、全国どの地域にも存在するもので、それらが同じ場所にあり、少しの工夫と仕掛けにより、地域における人々のつながりが強くなり、生きがいを感じ、共存している姿はうらやましく感じます。

本市においても例えば、町内会単位で核となる施設（福祉施設や企業、学校など）を中心に町内にある資源をつなげ、それらを利用する住民同士のつながりを強める地域づくりの必要性を感じました。



▲自然とコミュニケーションを生むシェア金沢の小径